

久木末次郎氏の講演

アルゼンチンの花作り

司会 故国に帰って参りまして豊富なアルゼンチンに於ける花作りの経験をお持ちの久木末次郎先生を囲んで肩の凝らないお話しを承りあとで又懇談の機会を持ちたいと思います。最初はこの会を持ちました責任者である雪印種苗の松原社長に開会の御挨拶をお願いしたいと思います。

松原社長 ご挨拶を申し上げます。私は昭和三十五年にHBC(北海道放送)の主催で北米、中南米或いは欧州の産業経済視察団に参加した訳であります。北米を終ってニューヨークからメキシコ、ペルーのリマ、チリーのサンチャゴに寄り、アルゼンチンに向った訳であります。ブエノスアイレスのエアポートに着いたのが八月十五日の夜の十一時ですが寒いのに驚ろきました。寒いぞと言われてはおりましたが飛行場に下りてみるものすごく寒い、摂氏六度位、こちらは丁度お盆だということで暑い盛りですが聞くところによると八月一ヶ月の平均温度が十度だということでした。それでホテルに着くや一せいにコトンのシャツを引っぱり出すやらテンヤワンヤでした。翌日HBCの阿部社長さんがアルゼンチンの駐日大使とお親しく、阿部さんのお手紙を持って大使館に真先きに行きまし

た。林屋という領事さんが居られまして札幌の富貴堂の隣の林屋さんというお茶屋さんの本家の息子さんだそうです。札幌という懐かしいところから話が進み、津田大使が札幌からならば近くの琴似からアルゼンチンに来て大成功をしている久木という人がいる。私も久木さんの息子さんがアルゼンチンに居られることは聞いていましたが、ブエノスアイレスの近くにいらっしやることは存じ上げませんでした。津田大使が是非会ってくれという事で久木さんの処へ連絡をしてくれた訳であります。久木さんは私共一行十人全部来て自宅に泊れというお話でしたが、旅程の都合もあり又十人も押し掛けて行つてはイカンという事で結局久木さんにホテルへお出を願ひ夕刻色々お話しを承り当時の苦心談など尽きぬ話に花が咲いたのであります。その時に今年は伴に嫁をもらうことになっていて。嫁をもらって落着いたら一度是非札幌に帰りたい。という事でありました。久木さんは二十一才の徴兵検査が済んで直ぐ向うへ単身行かれたようであります。爾来約四十年近く向うで非常な御苦労をなさつて、今では花作りで大成功をなさつている、私共の行った時のお話しではバラを主としていら

つしゃるとの事でありました。日本の移民も暫らく跡絶えていきましたが最近又南米に對しての移民も多くなつて来ておりましよう。今日遅れてお見えの筈の月寒学院の栗林元次郎さんが去年南米に行つてこられまして、先生は南米にたくさん教え子が居られるのであちこちずい分廻つてこられたようですが、帰つてからの話では兎に角アマゾン河の流域に日本の国民を半分持つて行くと、五千万人をアマゾンへ、と人の顔を見れば明けても暮れてもアマゾン河論をやつてゐる訳であります。尚又、長友北海道副知事、幸田農政課長さん、十勝選出道議の西島さんなども六月早々南米にご出張される訳であります。日本人が向うに行かれてから出来た北海道協会の創立二十五周年の記念式典に臨まれるとの事であります。今日はごく限られた方に御案内いたしました。長友副知事さん始め多数の方が御多用の中を時間をさいていただいております。これから久木さんの向うに度られての御苦心談、更に今日成功されてやつておられる御事業の状況、更に今後日本人が南米に移民で行くとすればどういふ事を考えねばならぬか、という事などもお話しいただきたいものだと思ふ訳であります。色々時間の都合もありますので始めにお話しをいただき、そのあと八ヶ岳のシネを拝見し、そのあと色々質疑応答をしていただきたいと考え

ている訳であります。それではよろしくお願ひいたします。

久木 私はこういう席上で話した例がないのでどうも訥弁で話が前後する事もあるでしょうが御諒承下さい。

昭和二年に渡航

私は満二十一才の年にアルゼンチンに参りました。参るにあたり殖民学校スペイン語科を二年間教わつて行きました。当時大島喜一先生、藪内先生、来敷鉄也先生にスペイン語を教わつて行きました。札幌を発ちましたのは昭和二年二月六日でありました。横浜港は二月二十一日、あちらへ着きましたのが四月十七日であります。丁度あちらの秋でした。港に着いた時が夕方で殆ど薄暗くなつていました。ブエノスアイレスに行くについて誰も知つた方も居られず日本人の宿屋に御厄介になろうと思つてタクシーを頼んで乗りましたところ、教わつたスペイン語を使つて一時間後に日本人



の宿屋に到着しました。中に居りました人は全部日本人でありましたので私も胸が落着きました。

そこで皆さんに話を聞きましたところ大體に於て日本人はカフェー店のボーイ、自動車運転手が主な仕事でありました。翌日夜が明けてみますと宿は港から歩いて十分位の近くにあった事が判りました。こんなに近くの間に一時間もかかってタクシーに乗せられ当時の日本金で十円とられました。これは十八ペソで当時金の値は一ヵ月で十五ペソから三十ペソで生活出来る時代ですからマンマとやられた訳であります。最初にだまされたなと思いましたが、よしこれじゃいかん、一つ心を緊めてかからねばいかんと考えました。

仕事を求めて

三日目に南鉄道会社の方に行き汽車に乗り日本人の集団地である野菜園芸のブルサッコという所へ行きました。日本人が十七軒あり五十六軒の家を廻りましたが秋のため使用人を出さねばならぬ時期で、何とか食べさせてもらう丈でも働かしてくれと頼んだのですが、入ってもらおうと日本人ならば都合が悪い時直ぐ出す訳にも行かぬという事で空しく仕事にありつけず帰りました。そして一週間目に当時の市外地の野菜や花作りをしていた中島小次郎という花作りの元祖の人が宿屋に「誰か働かんか」とやってきましたので大喜びで「僕がやりますよ」と言つて申し入れ花園に入りました。その前宿屋の人に自分は農場経営の

夢見てアルゼンチンにやって来たんだ。初めは牧夫としてどこか入りたいんだと話しました。然し大農場となると相当資本を持つて来なくちゃ駄目だ、アンゼンチンでは大農場となると少なくとも千町歩位経営しないといけないが裸一貫で牧夫からやろうと思つても、牧夫は一番給料が安く割が悪

いから一生牧夫で暮さないとならなくなる。金を残さずだつたらブエノスアイレス近郊で働きたいと言われました。それがきつかけで現在花作りになっておりますが、今申した中島さんのところえ大體八月居りました次に中島さんと一緒に日本から参りました村山納さんがブエノスアイレスから七十キの地点で外人の農場内にある協同花園を経営していた人へ中島さんから廻してもらいそこで働くことになりました。そこは大体スペイン人、イタリヤ人が働いており翌日よりこれらの人の監督をして働きました。村山さんは花売りに出て一日かかるので園を見る事が出来ず私が教わつたスペイン語で監督をする立場となつた訳です。ここで二ヵ年働きました。この時の給料は七十ペソいただきましてあとでは百ペソに昇給しました。私は日本で相当百姓をやつて花の採掘も兄とやつたりして経験があつたので自慢ではありませんが主人より倍位出来ました。それでこんなに良い給料をもらえたのであります。

花作りに専念

ここで二ヵ年働いているうちブエノスアイレスに近いところで花作りをやりたいと思

い現在のエスコバルに日曜毎遊びに行き外人の六十町歩で蔬菜園芸をやっている人に問合せたところ自分と協同経営をやつてくれという事で五年間の契約をしました。この人がイタリヤ系のアルトウロ・サングネッティという豪農でありました。ここが現在ブエノスアイレス市内に編入されましたが都心より五十キの地点にある農場であります。ここでいきなり九つ温室を建てましてその年入つた、賀集九平さんは三棟、恩田恒雄さんは一棟で夫々始めました。私は最初から温室の数が多かったので収入も良く大體三年位経ちましたら資金が出来ましたから近くに五畝土地を借りまして私の園を始めておいたのです。当時日本人丈が私の処で働いておりましたので、一人の日本人を送つてそこを見てもらつておりました。そして五年の契約が終つて私はそこに移つて行きました。

成功の動機

サンギネッティという人は市から十五キの処に活動館を持っていました。或日そこへ遊びに行きましたところカーネーションが植えられてあつたのです。そのカーネーションがアメリカの種類でしたが、断わりなしに腋芽をかいで十五〜十六本持ち帰り挿木したところ五〜六本活着しましたのでドンドン繁殖して三年後に一万五千本位にいたしました。これを一ぺんに温室と露地とに分けましたところそれが一躍売れたのです。当時露地ものは百本束ね五ペソ、温室ものは冬で十八ペソでお蔭様でその年

は毎日七、八百ペソ入りしました。当時の金にしては莫大なものです。毎日五千本から六千本切花で出していました。これで一躍もうかりましたので直ぐ八・五畝土地を購入し十一温室を一ぺんに建て次に菊作りを始めました。これはヨーロッパよりエロームメントという品種を輸入しまして、繁殖し相当に売りました。そんな訳で新しい誰も持っていない種類を作つたのが成功の要因でしょうが、品種名のハッキリしないカーネーションの方も花は小さかったが香りが良く茎も丈夫で水持ちも良いといふので皆さんに好まれて私はその名前をロサディターと名付けて収入をあげて行きました。その後は割合にトントン拍子に行きました。そして一九四二年の年に三十五温室を持ち、土地が八・五畝、家も鉄筋コンクリートで新築し、私の花園の基礎を確立することが出来ました。

災を転じて福とす

そんな事で割合良く行つていたのですが一九四八年十一月二十八日に大旋風に見舞われ私の温室が全滅してしまいました。二廻しもある大木が根こそぎにされる程の大へんなものであります。これで私と広瀬さんと上江津さん三軒がやられ皆さん見舞に來られたりしました。当時金は貯えて四万五千ペソ程ありましたが、戦争後でガラスがなかったので建て替えるにしてもガラスが無し、結局ブエノスアイレス近くのスペイン人、イタリヤ人などで温室をやつて

をつけ之を買い集めて全資金を投入し三十二温室まで復元しましたが、借金してまでもするべきでないと思ひ三十二棟で止めました。この頃からこれまでの菊、カーネーション、カラーなどのよろず屋からバラ専門に移行して行きました。バラは最初作られていなかったのが割合良く売れました。所がだんだん増えるに従い良い値で売れなくなり今度は新品種の導入に努めることとし毎年ヨーロッパから少しずつ入れる様になりました。そして現在迄そうやっていきますが、十五、六種類のうち本場に良いのは一、二種類しか出ません。需要価値のあるものを見極めて、野バラを増殖して接木株を養成し市場に出して行きました。本格的には今から十年位前からバラ苗と切り花専門にやる様になりました。

七転八起の精神で

一九五四年に第二回目の被害、即ち大降雹に見舞われました。これは卵大の雹が降ったのでありましてガラスは一枚残らずやられてしまいました。それでこの時も町にガラスがなくて困りましたので、政府に願ひ出て、賀集九平さんの息子さんが代議士になったばかりの時でしたが、名刺を拝借してガラスの払下げを願ひ出てエスコバールの被害を補修しました。

これは輸入品で私だけでも二十分の降雹で受けたガラスの枚数は五百箱、一箱はミノー版八十枚であります。然しアルゼンチンに行つて始めて雪景色を見られました。この時は経済的にはそうこたえませんでした。

た。皆さん手伝つていただき直しました。その後は大体順調に行きまして現在のバラの数は切花で十五万本、苗木は十万本挿して売っているのは五万本、そして古い苗木は段々新しいものに取換えて行つていきます。現在では毎日夏分出す数は五十本一束のものを平均二百束出しています。多い時は三百束にもなるし少ない時は百束の日もあります。それが今迄売れない時は絶対にありません。夏分は価格は安いですが春と秋は非常に高いです。今はバラがカーネーションよりも好まれており、お得意さんがたくさんついて来ています。

金儲けのコツ

如何にして花を良い値で売つたら良いかという事を考えますと、あちらの人は一度品物に信用を得るとどこまでも信頼してくれる、必ず久木の方が良い賀集のものがほしいというようになります。それで品物の中に悪いものを入れるというのが一番悪い、バラも私は四段階に分けて出しています。一級品はお花屋さんでショーウィンドに飾り人の目を引く為に陳列するのに用い、非常に喜ばれております。お客さんはこの花を見て注文して行きますが、その時の仕事は二級品でやります。然し二級品といつても丈が少々小さいとか花が少し小型だという位で殆ど一級品と遜色のない立派なものです。三級品、四級品は大体お墓の方に売れて行きます。こんな訳で悪いものも良いものも皆良く売れています。この四段区分は私丈で特、上、中下にしてはいる事は良い事だと思つています。そんな訳で現在も相当な収益が上ります。一方資金も上りまして利潤も大した事ありませんけれども息子が一切やっております。

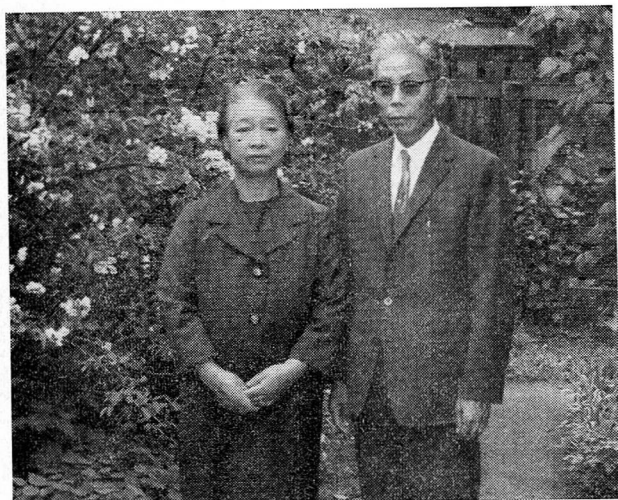
息子に責任を移譲

売上げは一年に千五百万ペソです。うち六〇％は経費にかかつており、利益の六五％を私が、残り三五％を息子という風に決めてやっております。

ます。然しこれは絶対的なものでなく親子ですから必要に応じて修正する事もあります。今度来日する前に更に八・五畝耕地を新たに購入したりしました。それで耕作面積は二十二畝です。今年は更に千八百万ペソにしたいと思つていますが何よりも信用が大切だと思つています。

有望な酪農

私はアルゼンチンに移る時農牧をやるうと思ひ入つたのですが、この道に入れなかつたのは非常に残念に思つております。今一番景気の良いのは牧畜の方であります。牧畜の方で日本人がやって居られますのは鈴木芳蔵さんと小松啓也さんが大規模経営でありまして鈴木さんの家に行つてみますと一、二〇〇頭の牛が居ました。このうち六〇〇頭毎年売つて、六〇〇頭の仔牛を買入れていました。六〇〇頭が二年で交代になる訳です。千二百頭のうち四〇〇頭は小麦とかトウモロコシを作つており而も僅か五人位の人で処理しております。従つて自分の土地の中を自動車で走つており、なかなか盛大にやっております。牧畜は私共の考えとして北海道の人に適すると思つています。アルゼンチンの土地は、海から山迄一千ギもありませんからあの広大な土地でもって酪農をやるのは良いのじゃないか。アルゼンチンのパンパの平原を見ると大分空いている土地がたくさんあります。その中で日本のような酪農をやると良いと思つています。やるとすれば矢張り集団農場をやつて出来たら製品工場も作つて日本人が共



故郷に錦を飾つて帰国された久木御夫妻（実兄宅で）

に進む、製品は日本なり外国に輸出するという工合が良いでしょう。日本人はスペイン語を知らずから中間商人にずいぶん色々な方面で搾取される。出来たら日本政府が金を出して、大乳業会社が先頭に立ち、指導者をつけて酪農民を連れペンパの平原に一貫した集団経営をやるといいのが良いのじゃないか、日本人に向くのがいいか、という考えを私は持っております。

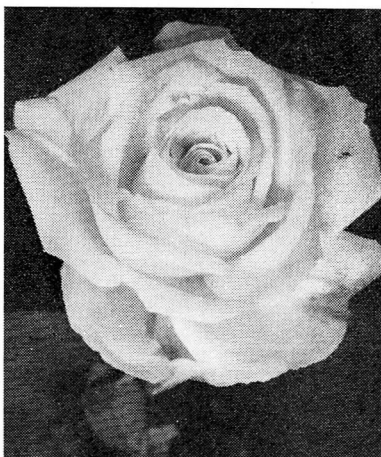
パラグアイの近況

現在パラグアイ国ミンオネスに来る時廻って見て来ましたがミンオネスの状態は景気の良かったトウング(油桐)が昨年は七ペソ一昨年は十二ペソまでしたのです。それが一ペんに安くなり、お茶も安くなって来ました。それはお百姓の給料が一躍倍位高くなり大体商工業と同じ位に引上げられました。その為にお茶や油桐を作っている人は輸出額が一定であるので経費嵩み取出トントンでお茶も油桐もあまり良く行っていないとこぼしていました。油桐は塗装原料で北米で一昨年ドンと買付けしてくれましたがそれまで三年間は売れずに山積みになっていたのが全部売れた訳で、一躍もうけた人が相当いましたが、昨年は又売れないので収穫しても金にならず、つまり換金出来るかどうかからんという状態ですから駄目だという人が増えて来ています。パラグアイではトウングが七ペソした値段が三ペソ半となり油桐の見込は駄目だと話している人が多いです。昨年大降雹もあり、あまりうまく行っていない現状です。

司会 それでは八が映画も拝見しましたので何か質問がありましたら、お聞かせ願いたいと思います。

○バラの品種ではどんなものが主力ですか。

露地バラではモンテスマ、ハビネス、古い品種でエクリップス、バックラ、エタナルヨースなどで、温室の中にはキングラッサム、スーパースターなど新品种が作られています。



赤色系のスパスター

係、一人は露地の責任者で、その上に息子の利夫(アルゼンチンではテルモと申します)が総支配人としてやっています。各支配人は先頭に立って働いています。使用人は全部で男十七人、女三人、給料は最低が一万ペソ(邦貨で二万三千円位でしょう)であります。この他恩給金の納付が別にあります。恩給金は全企業で義務づけられており、経営者である主人は給料の七分を本人は給料の中から六分を納めています。

バラ作り専門なのにカラーを作っているわけは、冬バラが数咲かないので、使用人の賃金を払うため作っています。冬の賃金は結構これでまかなわれます。日曜日は仕事を休みます。

○映画に出たお住居について自己宣伝をする様でマズイですが、家は建坪五百平方呎、庭園は

一・五畝、家の瓦は全部フランス瓦、階段の石はイタリヤ大理石、冷蔵庫は英国製とその他ペロン政府が倒れてからドイツ、アメリカの良い製品がほとんど入って来ています。孫の玩具やカメラは日本製です。庭にはローンの中に吉野桜、八重桜、都桜、牡丹桜が育っています。

○酪農のお話が出ましたが、乳価はどの位ですか。

アルゼンチン人は肉、野菜をよく喰べます。若い人は昼に五百ポンド肉を喰べます。牛乳も大へん良く飲みます。一軒で三ポンドが常識です。ところが肉や野菜は日本の半

値ですが牛乳は一ポンド五〇ペソ(一合二十円位)ですから割と良い値で取引されている事がわかります。ブエノスアイレスにはマルトーナという大乳業会社があつて独占的にやっているがなかなか景気の良い会社です。日本の乳業会社が入って行けば充分対抗してやれると思います。

○税金の方を伺いたいのですが

税金ですか、私は一番納めている方です。儲けが百万ペソを越しますと四十五%税金をとられますので、申告を少なくしている人が多いようです。

○邦貨との換算はどうですか

この前アルゼンチンで幣貨切下げをやりまして一対一七一ペソですから、三六〇円が一七一ペソになります。大雑把に二倍と見て良いでしょう。だから二百万円一寸純益が出れば四十五%納税せねばならない。

○建物の固定資産税はありますか

フィルムで御覧に入れた家などには固定資産税はかかりません。唯建てた時だけです。田舎では家屋税はありません。地価に対しては少し高く見積られる程度です。

○生活では肉など安いと説明がありましたが、生活費はどんなものですか

肉や野菜は日本の半分位で安いので生活費は最低一万ペソで暮せます。でも家族四五人になりますと一寸苦しいです。田舎の人はこれでも幾らか貯えを作れます。それは野菜を自分で作り鶏を養えますから生活出来ます。が一万ペソが最低給料になつております。

○アルゼンチンのお住まいのところの一年の気候はどんな状況でしょうか

アルゼンチンは日本の反対になっており、春ですと八月になると柳の芽がふき出ますね。九月二十一日から暦では春です。九月に入るとほとんど芽が伸び暖かくなります。暖くなると札幌の様に晩だけ冷えるという事はないですね。適度の降雨があり、バラの花でも一晩で三つ五つと伸びる事があります。これは十一月の始め頃まで続き非常に良い気候です。十一月半頃より大分暑くなり十二月、一月と暑い夏になります。暑い気候に入りますと段々と乾燥が続くようになります。ブエノスアイレス市附近では二ヶ月、三ヶ月と全くの乾燥期になる事がありますので、作物は全部灌水せねばなりません。ですから水の設備が一番大切で、空気が乾燥してはいますから花などは割合に良く出来ません。花が腐ると、時は一年間にいくともありません。一月、二月迄は暑いですが、これは摂氏三十七八度が最高、一度四十三度迄昇ってこの時は人も死んだという話がありました。空気が乾燥しているので割合感じません。家の中に入りますと涼しいです。それでカーネーション作りでは日中でも温室に入っています。

私達、バラ作りは木が大きいので温室内の通風が悪く暑いですが十時頃から、作業員は外に出て露地栽培の方に廻ります。薬剤サンブは夕方とか曇りの日を選んでやり、三月になると又涼しくなりまして雨も時々降りますから流し込みもそう要りま

せん。五月になりますと割合に湿気が多いので時に花が腐る事もあります。温室では窓を開けておきますとその様な心配もありません。同時に流し込みを全部止めてしましますと床土が乾燥して大へん工合良くなります。冬になりますと五月迄は良い気候ですが、六月になると霜が降り零下五度六度という時があります。これは朝方になってなるのであって午前三時頃迄はそう寒くない三時四時が最も低くなります。この時には露地栽培の畑に火を焚かないとやられます。

○バナナは実りますか

ブエノスアイレスではバナナは出来ません、樹や花は咲きますが、実は出来ません、で結局、朝方不注意をして見廻らない人はカーネーションなどやかれてしまいます。

○霜の予防はどうやっていますか

普通の人は加温装置を持っていますから一斗カンに炭を入れそこへ「おき」を入れて歩きます。寝過ぎたりすると霜やけに会います。バラは木はやられませんが蕾の中が真黒になってしまいます。そんな事時々失敗する人があります。そうなりますと花の値段がうんとあがります。それでヤケブトがあると内心喜ぶ人もあります。

○切り花の販売方法はどうか

販売方法は、1 産業組合で受付けているもの、2 個人販売のもの、3 個人販売でも十人、十五人と組みになって一人の売りをつけているもの三通りがあります。産業組合は購買販売組合になっていま

すから依託販売であります。そこへ花売りの人を傭い売っている訳です。金は全部組合が扱っています。私は個人販売で私自身男の売子を一人持っています。都市へ行って売って代金を持って来ます。産業組合の依託販売の方は週一回払いです。

○切り花の海外輸出はどうですか

カーネーションはヨーロッパに出していますが、バラは成功しませんでした。バラの輸出はこれから研究せねばならぬと思っています。勿論全部航空便です。ラン類はやっていません。

○鉢物の栽培はフィルムでない様でした

が草花はどんなですか
観葉植物が主ですね、草花類はやっておりませんが一番多いのはゼラニウム、ペチニアなど、シクラメンが一番多いです。小さいパンジーは全然やっていません。一番多く作られている観葉植物はサンシベリヤです。それとゴムです。

○花作りの日本人の楽しみとでも言うことは

何と云っても花の品評会でしょう。エスコパル市で開催いたしますが、各地からも集り、花の女王や花車のダシを出したり、花まつりも一緒にやります。品評会に入場料を百ペソもらってやり、花まつりまでの経費をまかしたので、今年にはブエノスアイレスからも五万人位観客がありました。

札幌市北三十五条東一丁目出身の松原信孝さんが今年バラで一等をとりました。カーネーションも一等は日本人でした。また

二十三のクラブより選出された花の女王コンテストでは山形県出身吉宮昇さんのお嬢さん吉宮みき子さん(二十四才)が女王に選ばれました。次点はイタリヤ系の娘さん。

こうゆうふうにして日本人、イタリヤ人、ドイツ人が花を大衆の身近かなものにするため、花まつり、品評会、母の日、父の日

おぼさんの日、子供の日、恋人の日と全部花を使うように宣伝している。向うの人は造花を嫌い生花を好み、皆さんの気持ちがいよいよよくなっている。だから花の利用も多いのだと思います。然し栽培の技術面では福家さんのように菊作りでも常に新品種を作り入れる研究もし、渡辺さんのように温室も夏期日光よけの覆をしないで、五分に三十秒毎噴水が敷の様に室内に播き散り日光の直射を防ぐ新式の設備をして熱心に行っております。エスコパルには百十軒の花作りがあります。また市の日本人の四十割は北海道出身で、楽しみといえれば一昨年から会員四百人位の北海道人会が出来て野外パーティーをしたり、仲よくやっています。そしてこちらから来る人にも出来るだけの努力をしてあげたいという事になっていきます。

司会 本日は突然の御案内でありましたにも拘らず副知事さん始め大学の先生方並びに花作りの専門の方々が多数御参集いただき御静聴いただきました事を主催致しました係のものとして厚く御礼申し上げます。

(五月二十四日 札幌市雪印乳業

健保会館にて)